

薬物中毒者や元ヤクザ、元受刑者の方達に寄り添い、社会復帰のための活動をされている遊佐学（ゆさまなぶ）さんと対談しました！！

中尾が所属する小山ロータリクラブでは、7月29日に開催した新年度（館野年度）初の夜間例会に、フジテレビの人気番組「ザ・ノンフィクション」（毎週日曜日午後2時から）でシリーズ化され、今、その活動が話題となっている遊佐学（ゆさまなぶ）さんをゲストスピーカーとしてお招きし対談をさせていただきました。

現在遊佐さんは、神奈川県川崎市で基督教の伝道師として活動する傍ら、覚せい剤などの薬物中毒やアルコール中毒、キャンブル中毒に苦しんでいる方達、また元暴力団員や元受刑者の方達に寄り添いながら、一緒になって社会復帰に向けた活動をされています。

ところで、かく言う遊佐さん自身、以前は相当重症な覚せい剤中毒者で、幻聴からビルの5階から飛び降りたこともありました。また広域暴力団の構成員だった時期もあって、過去には2度ほど刑務所にも服役されています。

番組内で昔の写真が出ていましたが、あまりにも恐ろしすぎて（笑）現在柔らかな顔立ちに優しい語り口の遊佐さんからは、まったく想像できず別人に見えます。

対談でお聞きしたかったことの一つとして、番組で紹介されていた札幌刑務所に服役していた高齢者のTさんの行方でした。刑期を終えたTさんが出所する際、遊佐さんが身元引受人になり、空港まで迎えに行き、その後1ヶ月間一緒に生活して、新しい住居や生活保護の支給など世話をしていました。そのTさんの行方ですが、実は再び覚せい剤使用の罪で捕まり、懲役となって十数回目の服役をしているそうです。それでも遊佐さんは「今度彼が出所する頃には80歳近くになっていると思いますが、私は彼の更生に全力で支援します」力強く語ってくれました。

「何故、裏切られても支援することをやめないのか」と遊佐さんに率直お聞きしたところ、「自分も過去に何度も何度も更生しようと思いましたが、正直、自分一人ではどうしても抜け出せず、その度に周りの人達を裏切ってきました」と語り、「自分が更生できたのは、何度となく裏切っても、絶対に見放さずに自分を支えてくれた両親や友人、知人の存在でした。私の場合、それが基督教の出会いによって、自覚することができ、芯から更生することができました。だから私も何度裏切られたとしても絶対に見放さずに支援を続けていきたいと思います」と力強く語ってくれました。

最後に、当クラブでは以前から貧困やネグレクト、虐待などで居場所のない子

供たちへ向けた支援を行っていますが、その活動に対してアドバイスをお願いしたところ、「私が悪の世界に染まっていた頃、周りにいた人間の多くが、子ども時代に、そういう経験をしています」と語り、「ですから、そういう子ども達が間違った方向に向かわないように支援されていることは、とっても有難いですし、素晴らしい活動だと思います。もしアドバイスをすれば、支援を継続される中で、期待に応えられなかったり、逆に支援する意欲を減退させるような言動や行動を子ども達がとるかもしれません。しかし、そんなことあっても、絶対に見放さず、温かい気持ちで見守っていただければと思います」と語ってくれました。

30 分間の短い対談でしたが、貴重なお話がたくさん聞けて、素晴らしい時間でした。